

令和5年
11月29日

病害虫発生予報 12月号

茨城県病害虫防除所

今年の防除日誌を整理・確認して作業内容を振り返り、
来年のよりよい防除につなげましょう！

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：アブラムシ類、ハダニ類	1
促成ピーマン：コナジラミ類、アザミウマ類	2

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、共通害虫	3
-----------------	---

II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200

ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせください。

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 6.6%、平年値 1.1%）、発生地点率（本年値 40%、平年値 22%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 13.2%、平年値 8.8%）、発生地点率（本年値 70%、平年値 59%）ともに平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. コナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 12.0%、平年値 2.5%）、発生地点率（本年値 100%、平年値 47%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難となる他、果実にすす症状を生じるため発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入している場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生花率（本年値 49.0%、平年値 36.9%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 85%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 青色粘着トラップを 10a あたり 200～300 枚設置すると密度低減効果がある。
- ③ 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を導入している場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	アザミウマ類	発生量：やや多い	11月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	11月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
促成ピーマン	黄化えそ病	発生量：多い	11月下旬現在、平年より多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。
	斑点病	発生量：平年並	11月下旬現在、平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	11月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：多い	11月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、土浦市、龍ヶ崎市、筑西市および坂東市で平年より多い。イチゴ、秋冬ハクサイ圃場で発生を認めている。
	シロイチモジヨトウ		11月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、笠間市およびつくば市で平年より多い。イチゴ、冬レタス、秋冬ネギ圃場で発生を認めている。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 11月25日から12月24日)

気象庁(11月23日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	50	30	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 11月25日(土曜日)から12月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月2日(土曜日)から12月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 12月9日(土曜日)から12月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。